

# 分 科 会 の 概 要

分科会	世話人	趣旨と討論の柱	レポート
第1分科会	憲法と子どもの権利条約	<p><b>八木英二</b> (民研)</p> <p><b>越野章史</b> (和歌山大)</p> <p><b>土屋基規</b> (兵庫民研)</p> <p><b>【趣旨】</b> 現政権は「戦争できる国づくり」を狙いつつ、侵略戦争を美化し、貧困格差と異常な競争主義のいっそうの拡大を謀っています。そこで本分科会では、次の諸点を討論の柱とします。</p> <p><b>【討論の柱】</b> 1. 今日の改憲動向で「教育を受ける権利」はどの位置づけられているか。 2. 子どもの権利条約批准後20年の現在、わが国の子どもの権利はどのような現状なのか。 3. 子どもの権利の実現にむけて、学習権保障はどのような課題があるか (貧困・格差と教育の無償制その他)</p>	<p>1. 「地域での子どもの学習支援」 <b>梅原美野</b>(山科・醍醐子どものひろば)</p> <p>2. 『現代社会』での憲法学習 <b>松本省三</b> (滋賀県立石山高等学校)</p> <p>3. 「競争教育と子どもたち」 <b>斎藤早百合</b> (DCI 大阪セクション)</p> <p>4. 『子どもの権利条約』を大学生と学ぶ <b>久志裕子</b> (大学講師の会 (大阪))</p>
第2分科会	震災・原発事故をどう教えるのか	<p><b>朝岡幸彦</b> (民研)</p> <p><b>古里貴士</b> (民研)</p> <p><b>福田秀志</b> (兵庫民研)</p> <p><b>【趣旨】</b> 東日本大震災と東電福島第一原発事故からまもなく4年を迎える中で、安倍政権は巨大防潮堤の建設と原発の再稼働を着々と進めつつあります。&lt;3・11&gt;に向き合う教育は同時に、&lt;1・17&gt; (阪神・淡路大震災/1995年) や&lt;10・23&gt; (新潟県中越地震/2004年) と向き合う教育でもあります。</p> <p>私たちには、①災害によってなぜあれほど大きな犠牲が生まれたのか、②災害によって失われたものとどう向き合わなければならないのか、③災害の事実と教訓を次の世代にどのように伝えるのか、が問われ続けています。</p> <p>決して過去のものとはいえない、現在から未来に向けた「語り継ぐ教育」のあり方について、報告と参加者の討論によって深めます。</p> <p><b>【討論の柱】</b> 1. 震災や事故の「風化」をどのように防ぎ、次の世代への教育に繋げることができるのか。 2. 学校教育や社会教育の現場にどのように持ち込み、広げることができるのか。 3. 教師や父母・市民は政策に問題があるときに、どのように異議を唱え、修正を求めることができるのか。 4. 災害や事故に向き合う教育には、どのような意味があるのか。</p>	<p>1. 「震災を語りつぐ一人間復興のために」 <b>桐藤直人</b>(兵庫・小学校)</p> <p>2. 「原子力の教材づくり」 <b>青山政利</b> (大阪教育文化センター)</p> <p>3. 「原発副読本批判と原発教育」 <b>市川章人</b> (京都教育センター)</p> <p>4. 『授業案: 原発事故のはなし』の取り組みを通して」 <b>朝岡幸彦</b> (民研・東京農工大学)</p>
第3分科会	子どもの困難と発達支援	<p><b>梅原利夫</b> (民研)</p> <p><b>高垣忠一郎</b> (京都教育センター)</p> <p><b>福井雅英</b> (滋賀県立大学)</p> <p><b>【趣旨】</b> 子どもは発達上の困難や課題を抱えています。それを弱点ととらえるのではなく、周りの人間が寄り添って支援する過程で、子ども自身が発達のきっかけをつかみ、自分の力で歩いていくのではないのでしょうか。そのダイナミックな足取りを学び合ひましょう。</p> <p><b>【討論の柱】</b> 1. 子どもの抱える困難に寄り添い発達・自立を支援する取り組みから学ぶ。 2. 保護者・支援者・教師の共同のなかで育つ子どもや教師の姿から未来を切り拓く道と可能性を明らかにする 3. 個々の子どもや当事者の内面をとらえる視点を掘り下げる</p>	<p>1. 「不登校関係者の生の声を聴いて、考えさせられたこと」 <b>森川紘一</b>(NPO 法人「教育相談おおさか」)</p> <p>2. 「私は悪い子やで～A子との1年間」 <b>谷田健治</b> (京都府小学校)</p> <p>3. 「子どもたちの中の抑圧関係をどうほぐすか」 <b>早久間学</b> (滋賀・小学校)</p> <p>4. 「A君の成長に寄り添って」 (仮題) <b>西澤彰人</b> (滋賀・中学校)</p>

第4分科会	教育課程改革(道徳の教科化他)と学力問題	<p><b>金馬国晴</b> (民研)</p> <p><b>中村雅子</b> (民研)</p> <p><b>久田敏彦</b> (大阪教文センター)</p> <p><b>鋒山泰弘</b> (追手門学院大学)</p>	<p><b>【趣旨】</b> 学習指導要領の改訂に、現場の悲鳴と要求は反映されるでしょうか。財界の人材要請や政治による介入が懸念されます。学習指導要領は、学力テストを通じて徹底されてきています。</p> <p>この分科会では、あくまで参加者の現場視点から出発して、特設道徳や近年の各教科、特別活動、そして学力テストの問題点を明らかにします。さらにカリキュラムとその実践のイメージやデザインについて、多彩に語り合っていきます。</p> <p><b>【討論の柱】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳教科化の問題性と、国民・市民が求める倫理・価値観・社会性・生き方などを考え、今後の道徳カリキュラムを見通す。</li> <li>2. 学力テスト(全国学力・学習状況調査、自治体による実力テスト、PISAほか国際調査)の問題点を明らかにする。</li> <li>3. 教師が子どもと共に「実践したい」と思える授業、学級づくりなどのイメージやデザインを、参加者相互で語り合い、教育改革に対置するポイントを明らかにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「道徳の教科化と私たちの道徳実践」<b>得丸浩一</b>(京都市小学校)</li> <li>2. 「本当はこんな授業がしたいのにとあなたへ……」<b>茶谷淑子</b>(滋賀県民主教育研究所・中等教育部会)</li> <li>3. 『テスト収斂システム』が教育を壊す<b>金馬国晴</b>(民研)</li> <li>4. 「学力体制の問題点と授業作りの課題」<b>久田敏彦</b>(大阪教育文化センター)</li> </ol>
第5分科会	ジェンダー・セクシュアリティと教育	<p><b>橋本紀子</b> (民研)</p> <p><b>池谷壽夫</b> (民研)</p> <p><b>関口久志</b> (京都教育大学)</p>	<p><b>【趣旨】</b> 本分科会は、首都圏と関西におけるジェンダー/セクシュアリティの教育に対するバッシングの現れ方の違いを確認するとともに、それに抗して取り組まれた優れた教育実践を共有して、今後の課題と方向性を明らかにすることを目的に設定されています。</p> <p><b>【討論の柱】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東京と関西におけるジェンダー・セクシュアリティに関するバッシングの現れ方の違いを交流する。</li> <li>2. 各地の優れた実践にまなぶ。</li> <li>3. 今後の課題を明らかにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「関西のバッシングの現れ方とそれに抗しての取り組み」<b>門晶子</b>(大阪教育文化センター)</li> <li>2. 「京都から— HIV/エイズの社会活動と教育」<b>小田切孝子</b>(HIVと共に生きる会 PLANET 代表)</li> <li>3. 「東京都立高校のバッシング以降のジェンダー平等と性教育」<b>馬場富美子</b>(民研)</li> <li>4. 「東京の特別支援学級における性と生の教育」<b>永野佑子</b>(民研)</li> </ol>
第6分科会	管理体制の強化と教職員の働きがい	<p><b>糀谷陽子</b> (民研)</p> <p><b>田中武雄</b> (民研)</p> <p><b>市川純夫</b> (和歌山民研)</p>	<p><b>【趣旨】</b> OECDの「国際教員指導環境調査(TALIS2013)」では、日本の教員の勤務時間の長さが改めてうきばりになりました。同時に、「日本の先生『自信』最低」などと、「学級運営」や「教科指導」「生徒の主体的学習参加の促進」について「自己効力感」を持つ教員の割合が他国より低いことなども報道されました。</p> <p>安倍「教育再生」政策のもとで行われている教職員への管理統制強化が、子どもと学校、教職員の教育活動に何をもたらしているのかをあきらかにしながら、子どもを主体とした学校づくりを通して、こうした困難にどのように立ち向かっているのか、各地のとりくみを交流したいと思います。</p> <p><b>【討論の柱】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職員の長時間勤務や管理統制強化の強まりが、子どもや学校、教職員の教育活動にどのような影響を与えているのか</li> <li>2. 今日の教職員政策のもとで、教職員としての誇りと働きがいのある職場を、どのようにつくっていくのか</li> <li>3. 子どもの主体の学校づくりと教職員としての誇り・働きがい</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子どもを信頼した学校づくり—石の上にも5年」<b>三宅匡</b>(舞鶴市中学校)</li> <li>2. 「大阪教育文化センター学校づくりと教職員研究会のとりくみ」<b>杉浦健</b>(大阪教育文化センター「学校づくりと教職員」研究会)</li> <li>3. 「職員会議・学校運営への攻撃にどうとりくむか」<b>井上博人</b>(滋賀民研)</li> <li>4. 「教職員の長時間勤務問題にどうとりくむか」<b>米田雅幸</b>(全教)</li> </ol>

第7分科会	若者の進路・就労、労働問題と教育	児美川孝一郎 (民研) 阿部英之助 (民研) 杉浦由香里 (滋賀県立大)	<b>【趣旨】</b> 小中高大を貫く「学力・進学競争から就職競争へ」の実態（職場での労働問題も含めて）と、子ども・若者に折り重なる困難を見据えつつ、学校・大学・地域で彼らをどう支えるのかについて討論・交流します。 <b>【討論の柱】</b> 1. 日本の教育を覆う「学力・進学・就職」競争のメカニズム 2. 教育と就労の場における若者の現状と困難 3. 若者にどんな力を獲得させ、どう彼らを支援するか	1. 「高校生の発達支援と就労サポート」谷口藤雄（京都府立高校） 2. 「総合学習での労働教育」北村隆太郎（滋賀高教組） 3. 「大学生の自立支援—和歌山大学経済学部キャリア支援の現場から—」（仮題）本庄麻美子（和歌山大学） 4. 「子ども・若者支援に関する専門職をめぐる問題状況と課題」生田周二（奈良教育大）
第8分科会	「教育改革」と学校・子ども	佐貫浩 (民研) 山本由美 (民研) 山口隆 (大阪教文センター) 大平勲 (京都教育センター)	<b>【趣旨】</b> 第8分科会「教育改革と学校・子ども」では、領域としては、教育改革・教育行政問題を領域として、今回は、①教育委員会制度の改変の問題、②教育再生実行会議などの改革動向の検討、を基礎にしつつ、各自治体における教育行政やその下での学校の実態、対抗的な改革のあり方について議論をします。今までこの分科会では、東京と大阪の自治体改革に焦点をおいて議論をしてきた経過も含めて、討論を進めていきたいと考えています。 <b>【討論の柱】</b> 1. 教育委員会制度の改変の問題(教科書問題を含んで) 2. 教育再生実行会議などの改革動向(小中一貫教育を含んで) 3. 35人学級抑制の動向と課題	0. 課題提起 佐貫浩(世話人) 1. 「教育委員会制度改悪と大阪の状況」山口隆（大阪教育文化センター） 2. 「奈良県における教科書問題の取り組みと課題」樽井幸一郎（子どもと教科書ネット奈良21） 3. 「京都市の学校統廃合と小中一貫校の検証」大平勲（京都教育センター） 4. 「少人数学級の運動と現局面の課題」橋口幽美（ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会）
特別分科会1	部落問題解決と教育	柏木功 (大阪教文センター) 竹田政信 (和歌山民研)	<b>【趣旨】</b> 八鹿高校事件から40年、同和の特別法終了から12年経過しました。様々な取り組みの結果、部落問題解決は大きく前進しました。こうした状況の中で、人権教育の現状と問題点を出し合い交流をしましょう。 <b>【討論の柱】</b> 1. 各府県で特別措置法による同和事業が行われ、地域が変わり人も変わり、部落問題が提起する教育課題も解決してきました。今、部落問題解決はどこまで進んだか、それぞれの地域の変化を交流しましょう 2. 1974年11月22日、解同により八鹿高校暴力事件が引き起こされました。当時の八鹿高校における教職員の民主性と生徒会を中心とする在校生の活動は、その後の闘いに勇気を与え、各地で解同の暴力的糾弾と果敢に闘いました。八鹿高校事件から学びましょう。 3. 若い教員が、部落問題解決の到達点と課題についての理解を深めるための取り組みを交流しましょう。また、解放教育の影響や人権教育の押しつけなどについても交流しましょう。	1. 「教育における部落問題解決の取り組みについて」竹田政信（和歌山） 2. 「やめさせよう『部落問題学習』」大阪での到達点 柏木功（大阪教育文化センター） 3. 「八鹿高校事件と私 あの日とあの頃」前川貫治（兵庫）
特別分科会2	みんな悩んですてきな教師に！	木村浩則 (民研) 大瀬良篤 (大阪教文センター) 小玉雄介 (兵庫民研)	<b>【趣旨】</b> 昨年の東京大会では、新採2年目、8年目、そして育休中の3名の若手教師から、各々の悪戦苦闘ぶりや悩み、立ち止まって考えたことなどが報告され、若い教師や学生だけでなくベテラン教師も励まされる実り豊かな分科会となりました。今回も、青年教師が集まり、互いの実践や悩みを交流するとともに、生き方や働き方について考え合う場に行きたいです。また教職をめざす学生たちの活動から、彼らが教師へと成長する道筋や、それを支える職場づくりについて話し合えればと思います。青年教師や学生はもちろん、ベテラン教師の皆さんの参加も大歓迎です。明日からの実践に元氣と勇気をもらえる、そんな分科会を参加者の皆さんでつくしましょう。	1. 「ぼちぼち いこか」<仮題> 林沙智亜（京都府小学校） 2. TNP東市日本一プロジェクト（奈良の教員志望学生） 3. 「中堅教員と子育て～ライフワークバランスと多忙化と苦悩の日々」井上一洋（兵庫教職員組合） 4. ルーク・ザレブスキ（和歌山）